佐藤 武治

子ども医療費無料化について

質問 当町の子ども医療費制度の現状について。

答弁（住民課長） 串本町に住民票がある未就学児の保険が適用された医療費の入院・通院費の助成制度として「乳幼児の医療費助成制度」と、ひとり親家庭に該当または準ずる家庭に扶養されている児童（18歳に達する以降の3月31日）に対する助成制度として「ひとり親家庭の医療費助成制度」の2種類があります。「ひとり親家庭の医療費助成制度」については所得制限があります。

質問 県下の各市町村での医療費制度で、年齢の引き上げが今年から多くなっているとの事ですが状況はどうか。

答弁（住民課長） 中学生まで医療費を無料としているところが2市13町、内1町が来年より高校生まで拡大予定、18歳まで無料が4町あります。

質問 町内では子育て世帯で所得の少ない世帯が多い、支援が必要と思うが、今後医療費の助成についての考えは。

答弁（町長） 今までは財政上の問題もあり、厳しいと答弁してきたが、平成28年度に向けて、中学生までか、高校生までか等、子育て支援が今の財政状況で最大どこまでできるかを検討して方向性を出していきたいと考えているところです。

AED（自動体外式除細動器）の現状と課題、普及について

質問 今日本で院外心臓突然死が毎年7万件を超えているようですが、AEDの出現で救命されることもあるようです、しかし、AEDの数が足りない、設置場所が市民に周知されていない等が指摘されています。担当部者は設置場所を把握されているのか。

答弁（消防長） 串本町消防本部管内（串本町・古座川町）で81基が設置されているが、全ては把握していない。

質問 役場のホームページには、設置されている場所の掲載はされているのか。

答弁（消防長） 役場のホームページには記載はございません。ただ、和歌山県の医務課のホームページには、串本町内のAED設置場所は記載されています。

質問 学校設置のAEDは休日や夜間は使用できない。体育館やグランドを使用してバレー、少年野球等の活動をしているがどのような対応を考えているのか。

答弁（消防長） セキュリティーの関係もあり教育課と検討したい。

答弁（教育次長） 学校関係のAEDは休日は鍵を閉めてセキュリティーがかかっており、簡単には入れない。体育館の使用も多いみたいなので、設置できないか検討させて頂きます。

質問 設置義務はないが人の集まる場所、金融機関、橋杭の道の駅等は必要と思うが、未設置の金融機関等へは、消防から要請、指導はしないのか。

答弁（消防長） 特に今までは指導はした事が無いが、道の駅は必要だと思う、町当局と検討したいと考えています。

質問 消防署では、AED講習や心肺蘇生法の講習は、町関係だけか、民間まで計画的におこなっているのか。

答弁（消防長） CPR（心肺蘇生法）については申込団体、町内全域に希望があれば受けています。以前は普通救命講習を公募して年1回実施していたが、今は各団体から要望していただいて講習しています。

質問 役場職員関係は全員が講習を受け、知識を身につけてほしいが、対応は。

答弁（消防長） 総務課とも話をし、計画したいと思います。

答弁（総務課長） 職員研修も位置づけしたいと検討しています。消防とも協議し、実現の方向で考えたいと思います。

水口　崇

医は仁術

質問 医療の原点は、救急医療にある。3次医療と2次では、救命率に3倍の差がある。高速道路の南進で3次医療の南和歌山病院への搬送が可能になった。救急隊員の判断で直接搬送をすべき「助かる命は助ける」

答弁（消防長） 直接救命士の判断で、高次医療機関へ搬送する。

質問 「医は、人命を救う博愛の道である」紀南病院の医師の対応に大変驚いた、大病院でも「医は仁術」を貫いている。くしもと病院も大病院に比べ医療は劣るが、住民に信頼される「医は仁術」を目指すべきである。

答弁（病院管理者） 以前に比べまして力を合わせて、出来る範囲は全力投球でやっている。

防災対策

質問 10年で8割の死者数を減らす、南海トラフ巨大地震で8，200人を1，640に、という政府の目標に沿って、対策に取り組まれているのか？答弁無し。

質問 年次を追って、目標を立て、計画的に防災対策に取り組むべきである。

有害対策

質問 毎年、串本町は被害（作物が一晩で全滅）が出てから、有害駆除対策実施、他町は被害が出る前に対策。古座川町（4月～10月に個体調整）日高川町（長期間の有害捕獲）何故串本町は取り組まないのか。

答弁（産業課長） 有害駆除むやみに出せない。動物を守るということもある。

質問 串本町の考え方はおかしい。他町で出来ることが出来ていない。有害対策の目的を果たしていない。

子育て教育現場

質問 地方創生の鍵は子育てにある。地域経済と表裏一体なのは、教育である。串本町の衰退は、子育て教育に取り組んでこなかった政策ミスである。

答弁（教育長） いろんな面で今、授業改善が行われている。家庭学習が一番大事である。

質問 県が、低い学力テスト・全国最悪の不登校率・多い小規模校等の改善に教職員のレベルを上げるために教職員大学院設置・ソーシャルワカーの必要性の認識。

答弁（教育長） 大学院に1名位は参加させていく、串本の教育を背負って立つ教師を育てたい。ワーカーも県に要望する。

2015年全国学力テスト【小学校】

順位	都道府県	平均正答率
1位	秋田	70.4
2位	石川	69.1
3位	福井	68.4
29位	**和歌山**	62.7
45位	大阪	61.3
46位	滋賀	61.2
47位	北海道	61.0
**位	**串本町**	61.1
平均	全国	63.5

2015年全国学力テスト【中学校】

順位	都道府県	平均正答率
1位	福井	65.9
2位	秋田	65.3
3位	石川	63.4
43位	**和歌山**	58.0
45位	佐賀	57.4
46位	高知	55.9
47位	沖縄	53.4
**位	**串本町**	54.7
平均	全国	60.7

答弁（教育長） 全国学力テスト「昨年よりはかなり向上した」。

質問 現状串本町は超危機的な状態、危機感を持つべきである。

質問 子供の貧困対策、連鎖に陥らさない。教育は一つの手段である。

答弁（教育長） 取り組んでいかなければならない大きな課題です。

質問 大きく遅れている、保育環境対策、串本地区対策を先に進めるべきであった。待機児童解消が出来てない。

答弁（福祉課長） 保育の質を上げたい。

質問 教育環境を整えることは全てに繋がっていく。県内企業の採用で40％が、若者の能力が期待以下で不採用という現実。辛抱の出来る人作りが大切。福井県は、「学校は、生きるための準備の場、そして武器は教育」と言いきっている。